

地域密着型特別養護老人ホームにおける評価からみた地域連携の実態

正会員 ○毛利 志保 *
同 加藤 彰一 **

地域密着型特別養護老人ホーム 地域連携 評価項目
近隣住民 利用者家族 理念

1. はじめに

2006年に制度化された地域密着型特別養護老人ホーム(以下、地域密着型特養)は、定員29名以下で市区町村内でのサービスの完結を前提とした地域密着型サービス施設である。入居者が従前の生活をできるだけ維持できるようにハード・ソフトともに考慮されているが、その地域連携の実態は明らかとなっていないのが現状である。

地域密着型特養においては「単独運営が困難なため母体との密な連携が必要となり、まちなかへの立地が困難」「運営を考慮し併設サービスが多くなり、その結果中規模にならざるをえない」といった課題*1が得られたが、これら以外にも施設運営側と地域住民との意識の違いや、取りまとめを行う行政との連携が円滑でないことなどが指摘される。

そこで本稿では、全国の地域密着型特養において地域密着性の達成度の評価を主眼とした項目を用いてアンケートを行い、施設運営の関係者間における意識の差異について把握する。その結果より、今後の地域密着型特養の運営の課題について言及する事を目的とする。

2. 調査概要

1) 調査方法

表1に調査概要を示す。全国の地域密着型特養606施設の対象者(施設管理者、介護職員、利用者家族、近隣住民各1名)にアンケートを配布し、郵送またはWEB形式にて回答を得た。

各評価項目においては、その達成度について5段階で回答してもらう項目と「はい」「いいえ」の2段階で回答してもらう項目の2種類により構成されている*2。

2) 評価項目の作成

地域密着型特養における評価項目の位置づけおよび参考とした評価項目との関係を図1に示す。

アンケート項目については、その地域密着性を評価するという目的により作成した。地域密着型サービスである「小規模多機能ケア」*3「地域密着型サービス評価(主にグループホーム)」*4また、特養である「ユニットケア型特養評価」*5を参考として用いた。

地域密着型特養は地域密着型サービスに位置づけられている施設であるが実態とは乖離がある。そこで、地域密着性を高めるための必要条件を抽出し項目とした。

3. 調査結果

1) 全体概要

大項目別の評価結果をみると(表2)理念が最も高く、地域連携、サービス、ハードの順であった。しかしながら、

表1 調査概要

| | |
|------|---|
| 調査方法 | 郵送・WEBによるアンケート |
| 配布対象 | 全国606施設の地域密着型特別養護老人ホーム(施設管理者、介護職員、利用者家族、近隣住民各1名) |
| 回収率 | 施設管理者6.1%(33)(うち郵送:5.8%/31、WEB:0.3%/2) 介護職4.2%(25)、利用者家族3.2%(19)、近隣住民3.2%(19) ※施設管理者以外は郵送のみ |
| 実施日 | 2013年12月15日~2014年1月10日 |
| 設問内容 | 施設概要・建築概要 地域密着性に関する理念、地域連携、サービス、ハードの達成度 |

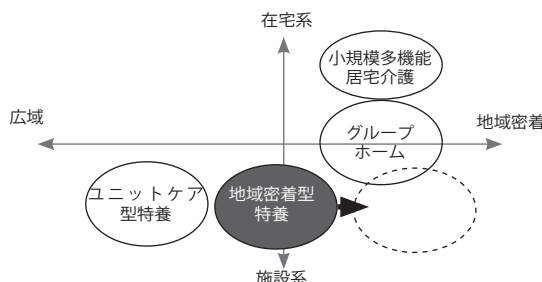


図1 参照評価項目の施設類型および地域密着型特養の位置づけ

| 大項目 | 中項目 | 小項目 |
|------------|-----------------------------|-------------------|
| 理念 | 理念づくり | 1 地域密着型理念 |
| | | 2 スタッフ間共有 |
| | 理念の共有 | 3 利用者・家族との共有理解 |
| | | 4 地域住民の理解 |
| | 運営への意見反映 | 5 運営への利用者意見の反映 |
| | | 6 運営への家族・地域住民意見聴取 |
| | | 7 運営への地域住民意見の反映 |
| 地域連携 | 地域貢献 | 8 地域貢献活動 |
| | | 9 他事業所との情報交換 |
| | | 10 行政への働きかけ |
| | 運営推進会議 | 11 会議への参加 |
| | | 12 参加者の発言 |
| | | 13 発言のしやすさ |
| サービス | 入居者の生活継続支援 | 14 ライフスタイルの把握・支援 |
| | | 15 人間関係の把握・支援 |
| | | 16 家族等の訪問支援 |
| | 外出支援 | 17 介護サービス把握 |
| | | 18 日常的な外出支援 |
| | | 19 定期的な外出 |
| | | 20 外出先での交流 |
| | (よりよいサービス提供のための)事業所と他機関との連携 | 21 個人に合わせた外出支援 |
| | | 22 地域包括センターとの連携 |
| | | 23 他事業所との連携 |
| | | 24 他団体との連携 |
| | | 25 地域住民との連携 |
| | | 26 自治会(町内会)との連携 |
| 27 地域活動の導入 | | |
| 地域貢献 | 28 学校等への働きかけ | |
| サービス終了後の支援 | 29 サービス終了後の支援 | |
| ハード | 居室からの眺望 | 30 情景の把握 |
| | | 31 敷地外の様子の把握 |
| | | 32 地域生活の把握 |
| | リビングからの眺望 | 33 情景の把握 |
| | | 34 敷地外の様子の把握 |
| | | 35 地域生活の把握 |
| | 共用スペースからの眺望 | 36 地域生活の把握 |
| | | 37 他サービスの取り入れ |
| | 施設空間の提供 | 38 スペースの貸し出し |
| | | 39 敷地境界の囲い |

図2 地域密着型特養評価を念頭にいたアンケート項目

The Actual Situation of the Cooperation with the Neighborhood Based on the Evaluation in Community-Based Facility for the Elderly

MORI Shiho, Kato Akikazu

小項目別では(図3)大項目に関係なくばらつきがみられた。特に「ハード」は項目間の差が顕著であり、眺望については概ね評価が高い一方で敷地外の地域生活の把握や地域活動へのスペースの貸出については評価が低かった。「地域連携」においては特に行政や他事業所への働きかけの評価が低い結果となった。

表2 大項目別にみた評価(点)

| 大項目 | (n=96) | | | |
|-----|--------|------|------|-----|
| | 理念 | 地域連携 | サービス | ハード |
| 平均点 | 3.8 | 3.6 | 3.6 | 3.4 |

表3 大項目別にみた対象者別の評価結果(点)

| | 理念 | 地域連携 | サービス | ハード | 全体 |
|-------------|------|------|------|------|------|
| 施設管理者(n=33) | 3.83 | 3.60 | 3.37 | 3.26 | 3.47 |
| 介護職員(n=25) | 4.19 | 3.75 | 3.82 | 3.76 | 3.86 |
| 利用者家族(n=19) | 3.52 | 3.61 | 3.73 | 3.17 | 3.54 |
| 近隣住民(n=19) | 3.79 | 3.46 | 3.52 | 3.50 | 3.55 |
| 最大値-最小値 | 0.67 | 0.30 | 0.45 | 0.59 | 0.40 |

2) 対象者別の評価結果

対象者別に結果を比較すると(表3)、介護職員の評価が突出して高く、大項目別においては理念とハードの対象者別の評価の差が顕著であった。特に、利用者家族の評価が低いことは、捉え方の違いもさることながら意識共有の機会が乏しいであろうことが推察された。

また、小項目ごとの評価結果において対象者ごとの差異が顕著なものに着目すると(図4)、地域密着型サービスで開催が義務付けられている運営推進会議での発言状況(12,13)における認識の差異(施設側では配慮できていると感じていても利用者家族や近隣住民はそうでないこと)や、地域密着型の理念の捉え方について乖離があった。

以上より、地域密着型特養の運営における課題整理とともに、対象者間の捉え方の差異を踏まえた運営の必要性が明らかとなった。今後は建築計画・配置計画との関係や同施設での対象者の差について、詳細な分析を進める。

謝辞

本研究は、平成23~25年度文部科学省科学研究・基盤研究(C)(研究代表:毛利志保)の助成を受けて行われたものである。また、アンケートに回答くださった施設には記して感謝申し上げます。

註

- 1) 竹原弥生, 毛利志保ほか2名: 地域密着型特別養護老人ホームにおけるカスタムマネジメントに関する研究 運営及および立地特性に焦点を当てて, 日本建築学会東海支部研究報告集, 2012.2
- 2) 「はい」の回答には5点、「いいえ」の回答には1点、「不明」は集計から除外し、全項目において真ん中を3点とする5点満点で評価した。
- 3) 永田久美子ほか3名: 地域密着型サービス サービス評価ガイドブック 2006年度版, 認知症介護研究・研修東京センター, 2006.12
- 4) 小規模多機能ケアの質の確保研究会編: 小規模多機能ケア評価システムのあり方・運営に関する調査研究, 小規模多機能ケアの質の確保研究会, 2005.3
- 5) 石黒富美子ほか3名: ユニットケア導入に当たり参考となるシステムの開発報告書, 認知症介護研究・研修東京センター, 2007.3

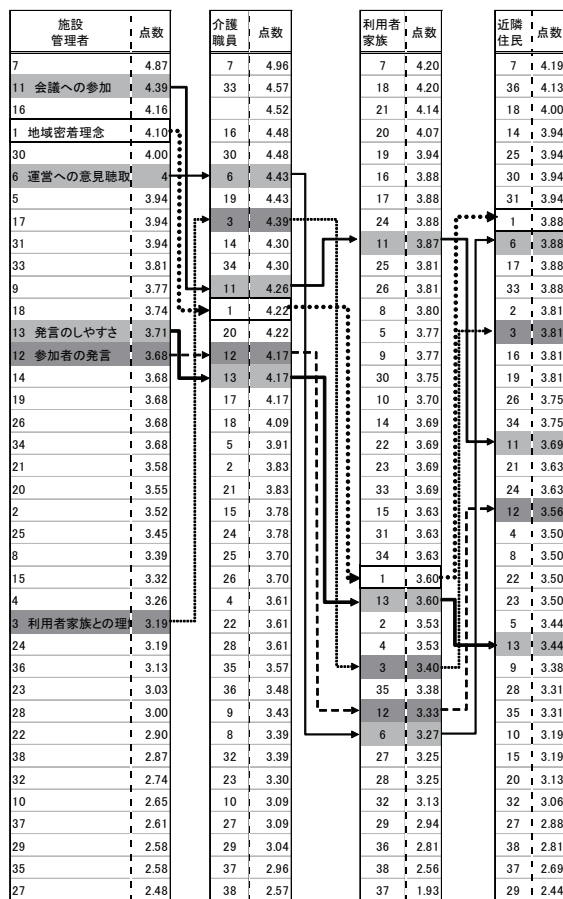


図4 対象者別にみた小項目評価結果の差異

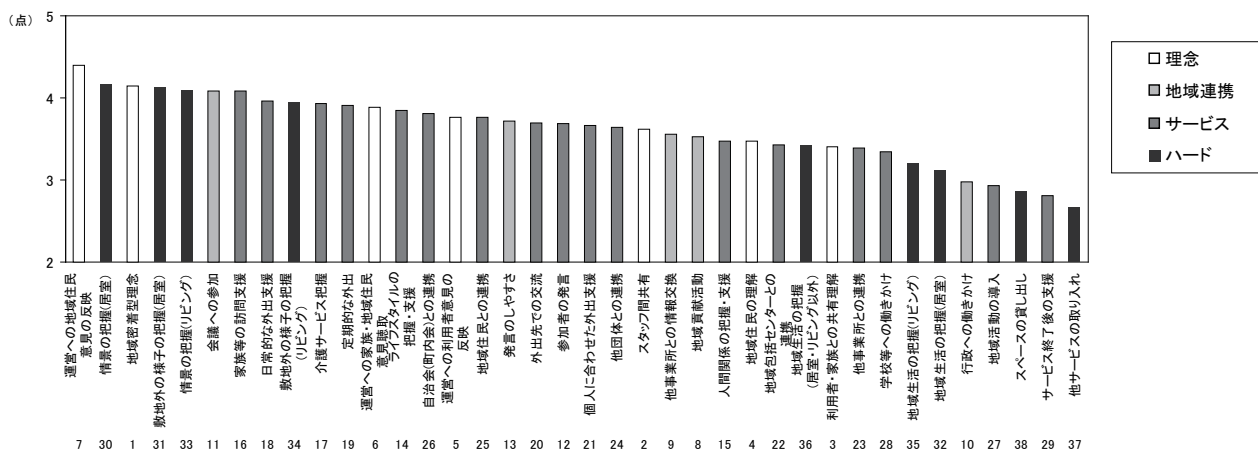


図3 小項目別にみた評価結果(降順)

* 三重大学大学院工学研究科 助教・博士(工学)
 ** 三重大学大学院工学研究科 教授・博士(工学)

* Assistant Prof., Graduate School of Eng., Mie Univ., Dr. Eng.
 ** Prof., Graduate School of Eng., Mie Univ., Dr. Eng.